



南犬飼中だより

建学の精神「向い原魂」

- 物事をまじめに根気よく続けよ
- 自発的実践活動を続けよ

新しい年、2026年（令和8年）を迎えました。保護者、地域の皆様には、ご家族ともに健やかな新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。また、昨年は、様々な教育活動にご支援ご協力をいただき誠にありがとうございました。お陰様で、学校行事を始め、様々な教育活動を予定どおり実施することができ、生徒たちも健やかに成長することができました。新年を迎え教職員一同、心を新たに生徒たちのために指導にあたって参ります。

【生徒会選挙】

12月18日（木）、令和8年度の生徒会長・副会長を選出する生徒会選挙を実施しました。昨年度より、立候補者は、選挙向けの演説動画を撮影したり、毎朝昇降口に立って選挙活動を行って来ました。今回は、選挙前に、現生徒会役員が考えたテーマに沿ったパネルディスカッションを実施し、南犬飼中がより良くなることを目指した活発な議論が繰り広げられました。自分の主張だけでなく、他の立候補者に質問をしたり、提案を付け加えたりなど、今まで以上にディスカッションという要素を深めた内容で、さすが来年度を担う生徒会役員候補者という印象でした。パネルディスカッション終了後、速やかに選挙が実施されました。



会長候補パネルディスカッション

【次年度生徒会役員決定しました】

- ・会長 : 2年 戸崎 益徳
- ・副会長 : 2年 松原 幸志 1年 五十嵐理佐子
- ・書記 : 2年 遠藤 優陽 2年 近藤 陽路
1年 伊藤 澄音
- ・会計 : 2年 山口陽向次 2年 中川 紗来
1年 八木陽菜乃

【第3学期スタート】

いよいよ3学期が始まりました。「1年の計は元旦にあり」と言いますから、本校生徒の皆さんは、1年の目標を見据え、その実現に向けて努力しよう、決意を新たにしていることと思います。また、学校も1年間の総まとめの時期を迎えました。1、2年生は学年として、3年生は中学校生活の総決算をするわけです。一人一人の願いや希望の達成はもちろんですが、学校全体としても「充実した1年を終えることができた」と胸を張って言えるよう、3学期も共に努力していきたいと思えます。

また、3学期始業式では、「生」ということを見つめ直し、3つの言葉をキーワードとして話しました。

1つ目は、「生きる」ということについてです。これは「自分の命を大切に、生きる」ということです。中学生のこの時期は、よりよく生きるために、自分自身でさらに磨きをかけ、人間としての誇りを高めるなどしながら、将来の自分づくりの準備をしている時期でもあります。「自分の命を大切に」ということで話しましたが、「他人の命も、心も大切にすること」ということは言うまでもありませんし、忘れてはなりません。

2つ目は、「生かす」ということについてです。これは「人のため、社会のために、自分を生かす」ということです。生徒は、学校生活のほとんどを、各学級や各部活動、各委員会活動などを単位とした集団の中で活動し、生活しています。自分が所属する集団において、何らかの形で、周囲のために役割を果たしながら貢献するなど、自分を生かして行ってほしいと話をしました。「自分を生かす」ということは、何年か後、自分が社会人となり、自分の選んだ職業において、自分の持っているよさや持ち味を生かして発揮していくこととも、繋がっていると言えます。まだ何年か先のこともかもしれませんが、自分の持っている力や可能性を伸ばすために、今、1番心を傾けて、努力をしなければならないことは何かを形にして、日々生活していくことが大切です。

3つ目は「生かされる」についてです。これは「自分が生かされていることに、感謝する」ということです。私たちは周りの多くの人に支えられているように、人は一人では生きていけません。人と関わり合いながら、支えられながら、生かす

れながら、人の間で生きています。そのようなことから、自分を取り巻く家族・友だち・関わりのある方々に対して、「ありがとうございます」とか「お陰様で・・・」などのように、家庭で、学校内で、地域の中で、感謝の声を出し、形に表し、生活して行ってほしいと思います。



始業式 第1学年代表発表

【感動ある立志式】

1月19日(月)、第2学年生徒、保護者、関係職員が参列し、立志式を行いました。立志式実行委員長あいさつ、校長式辞、県知事からのお祝いのメッセージ、立志記念品の贈呈、代表生徒による作文発表、全生徒による誓いの言葉、記念合唱など盛りだくさんの内容でした。特に、全生徒による誓いの言葉は、一人一人の思いを漢字一文字に表し、それぞれの立式に向けた誓いを生の声で堂々と発表する姿に感動しました。また、2年生全員で歌った記念合唱「越えてゆけ」では、素敵な歌詞と素敵なメロディーが体育館いっぱいに広がり、2年生全員の迫力ある歌声で、聴いていた保護者や職員にしっかりと想いを届けました。そして、2学年生徒にサプライズ企画として披露した、生まれたときからこれまでの生い立ちをまとめた写真のスライドショーでは、懐かしい写真と共に添えられた暖かいメッセージに、感動の涙が自然とあふれる場面が多くあり、参列した方々の感動を呼びました。

スライドショーの中に、親からのメッセージに添えられた「元気に生まれてきてくれて、ありがとう」の言葉に、自然と涙を拭いている保護者がとても印象的でした。メッセージにはありませんでしたが、これを見た生徒からは、「生んでくれて、ありがとう」と心の中で大きく叫んでいたように思えてなりません。

式が終わり、教室で担任の教師から生徒一人一人に保護者からの手紙が渡されました。教室が静まり返り、親からの手紙を真剣に読みながら、自然と涙しながら読んでいる生徒の姿がとても印象的でした。両親への感謝の気持ちは、言葉では言い表せないくらい生徒自身が自覚しているはずです。



立志作文代表発表



校長室より

「努力できるのが僕の才能」

日本のプロ野球やアメリカMLBで活躍したイチロー選手をご存じでしょうか。日本では7年連続首位打者、アメリカMLBでは、首位打者や年間最多安打、10年連続200本以上安打など、数々の記録を打ち立てた誰もが認めるスーパースターです。そのイチロー選手の名言はたくさんありますが、ある取材の中で「僕は天才ではなく、練習して努力してヒットの打ち方が分かっただけだ。だから、しいて言えば努力できることが僕の才能なのかもしれません」と答えていました。イチロー選手は、小学生のとき、お父さんと一緒に毎晩バッティングセンターに通い、そのセンターの支配人が感心するほど、一球一球丁寧に2時間も3時間も打ち込んでいたそうです。MLBに行っても、球場にはいつも他の選手より早く入り、柔軟体操、走り込み、守備練習、打撃練習に誰よりも多くの時間をかけ、試合に出る準備をしていました。「努力できることが僕の才能」、すばらしい言葉だと思います。自分がやると決めたことを、毎日きちんとやることは本当に大変なことです。つつい今日は昨日やったからいいかな、などと甘えがちですが、皆さんはどうですか？自分のやるべきことを、一生懸命にやるように努力していますか。子どものみならず、我々大人も、「努力できることが僕の才能」と言いきれるイチロー選手のように、自分で決めたことをしっかり継続していきたいものです。まさに「継続は力なり」です。